

【競技規則】 日本ティーボール協会（競技規則より一部抜粋）

が改訂箇所
(一部ローカルルール適用)

1. 競技場と用具について

①競技場（グラウンド）

壘間 16m

②用具（NPO 法人日本ティーボール協会公認品使用）

使用球 11インチ・ティーボール（黄色）

バット 表面ポリウレタンバット（S・Mサイズ若しくは70・76cm）Lサイズや84cm使用禁止
グラブ 使用可能

③バッターズサークル

本塁プレートの角を中心として、半径3mの円を描く。打者はこのサークル内で打撃を行う。

④バッティングティー

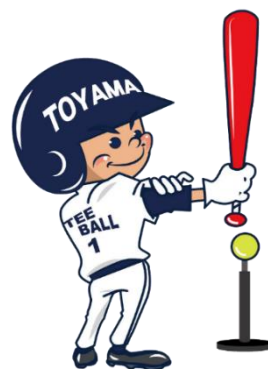
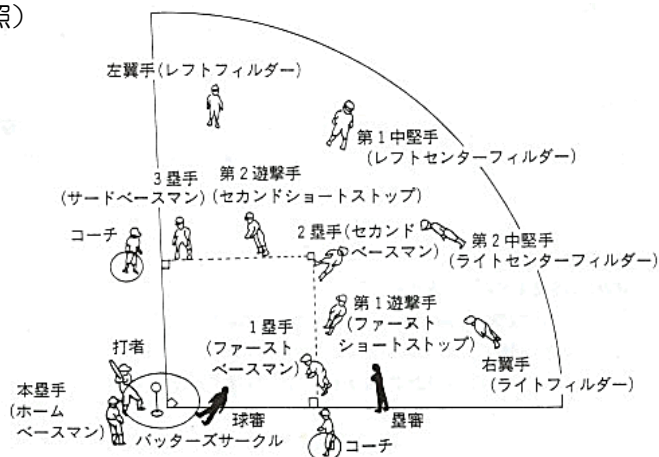
バッティングティーは、本塁プレートの後方50cm以上1m以内の間に置く。

2. 競技者について

①競技者（打撃者、守備者とも）は10名とする。

10名の守備者は、本塁手（ホームベースマン）、1塁手（ファーストベースマン）、2塁手（セカンドベースマン）、3塁手（サードベースマン）、第1遊撃手（ファーストショートストップ）、第2遊撃手（セカンドショートストップ）の5人の内野手と、4人の外野手に分かれる。外野手は、左翼手（レフトフィルダー）、左中堅手（レフトセンターフィルダー）、右中堅手（ライトセンターフィルダー）、右翼手（ライトフィルダー）に分かれる。

(図参照)



3. 守備者について

- ①本塁手は、打者が打撃を完了するまでは、バッターズサークルの外（ホームベース（バッティングティー）後方（打球の当たらない場所）にいないなければならない。
- ②全ての守備者は、打者が打撃を完了するまでダイヤモンド内に入ってはいけない。
- ③打者毎に守備位置変更のためのタイム延長は認めず、打者の準備が整い次第、試合を再開する。

4. 打撃規程について

- ①打者は審判が「プレイ」と宣告した後、バッティングティーに載せたボールを打つ。
- ②打撃時の軸足の移動は1歩までとする。2歩以上動かしたときは、ワンストライクが加えられる。ツーストライク後からこれを行ったときは、打者は三振である。
- ③打者がボールを打たないで、ティーだけを打ったときは、空振りでワンストライクが加えられる。ツーストライク後からこれを行ったときは、打者は三振である。
- ④ツーストライク後からのファウルは、打者アウトである。
- ⑤打者の打ったボールが、本塁プレートから3mの円の中にはボールがあるときは、ファウルとする。
- ⑥バントやプッシュバントは認められない。ツーストライク後からこれを行ったときは、打者はアウトである。
- ⑦攻撃時、走者・打者以外の試合に出場している競技者（ビブス着用者）は、本塁手後方の安全な位置に待機し、打者が打撃完了後、速やかに移動し打撃の準備を行う。
- ⑧ティーボールは、フルスイングで遠くにボールを飛ばすことが醍醐味であり、意図的にハーフスイングやダウンスイングを行ってはいけない。

5. 走塁規程について

- ①走者は打者が打った後、離塁することができる。走者の離塁が早いときは、走者は離塁アウトになる。
- ②盗塁は認められない。
- ③スライディングは禁止する（行くと走者アウト）。走者の1塁、2塁、3塁での駆け抜けは認められる（走者は塁ベースを駆け抜けた後、進塁の意思がない場合には野手にタッチされてもアウトにならない）。

6. 試合について

- ①2チームが攻撃と守備に分かれ、攻撃側の全打者（10人）が打撃を完了した時点で攻守を交代し、3イニング若しくは2イニングを終えたとき、得点の多いチームが勝者となる。予選リーグ戦に限り、予定イニング数終了後、同点の場合は引き分けとする。
残塁の走者は次回に受け継ぐ。最終回の残塁者はこの限りではない。
- ②球審によって、「プレーボール」が宣告されると、試合は開始される。
- ③フェアボールとファウルボールは、野球やソフトボールと同じであるが、バッタースサークルフェア地域内のライン上で野手がボールに触れたり、ボールが止まったときはフェアボールとする。
- ④インフィールドフライのルールは適用しない。タッチアップは適用するが、10番打者時のみ適用はしない。
- ⑤試合時間は、予選リーグ戦と決勝トーナメントの決勝戦は30分とし、それ以外の試合は参加チーム数により変動するが、概ね20分を目途に試合を終えるようにする。攻守交替は駆け足で行う。
- ⑥選手交代は主審に告げ“ピブス”の取り替えを行い出場する。一度出場した選手の再出場は認めない。
- ⑦トーナメント表番号の若い方を一塁ベンチ、先攻とする。
- ⑧メンバー表は提出しなくてもよい。

7. 得点について

- ①走者がその回終了までに、正しく1塁、2塁、3塁、本塁に触れた場合1点が記録される。

8. 審判員について（図参照）

- ①審判員は2人制で行う。2人は球審と塁審（1塁）に分かれる。
- ②球審は、打者の正面横に立ち、3塁と本塁周辺のプレーをジャッジする。
- ③塁審は、1塁手（ファーストベースマン）の後方、1塁ファウルラインに立ち、1塁と2塁周辺のプレーをジャッジする。
- ④球審と塁審は、打者の打撃が完了し守備者のプレーが一段落（ボールがダイヤモンド内若しくは、内野手が本塁手に返球（捕球の有無問わない））したと判断したら、常に「タイム」を宣告し、ボールデッド（試合停止球）とし、次のプレー（ティー台にボールをセット）に移るよう指示する。

9. その他

- ①その他のルールに関しては、日本ティーボール協会公式規則に準拠する。

特記事項（次イニングの残塁持ち越しについて）※2019.7.15日本ティーボール協会に確認

最終打者の攻撃時、走者1塁の場合、フォースアウトを1塁若しくは2塁のどちらで取っても次イニングの残塁持ち越し走者は1塁。走者1・2塁の場合は、フォースアウトを1塁若しくは2塁、3塁のどちらで取っても次イニングの残塁持ち越し走者は1・2塁。従って、満塁の場合には、どの塁でフォースアウトを取っても、無得点、次イニングの残塁持ち越し走者は満塁である。

※小学校中・低学年（小学1～4年生）の試合であることを十分理解し、安全にティーボールの“楽しさ”を選手らが体験できるようご配慮願います。

2017年3月 作成

2018年3月 改訂

2019年2月 改訂

2020年2月 改訂

2021年3月 改訂



とやまティーボール推進委員会